

地域資源（蜂蜜）の潜在調査や関連商品の開発及び販路拡大

- ◆振興山村名：乙部村
- ◆事業実施主体名：乙部町
- ◆事業実施期間：H29～H31
- ◆交付決定額：H29：5,100千円 H30以降未定



◎主な事業内容と効果

町内に多く群生しているニセアカシアとトチノキの蜂蜜の生産は、採蜜期間が5月中旬から6月下旬までと短く、さらに収量は年間1,200Kg程度、販売額も年間約500万円程であることから、地域資源である蜂蜜の、生産力と販売力を強化することが課題となっていた。

そこで平成29年度は、蜜源の多様化と効果的な販売戦略を検討するため、特に基礎調査と販路の拡大に重点を置き、効率的な採蜜のために樹木の分布調査や、新たな蜜源の環境整備、蜂蜜の市場特性の調査などを行った。

また、新商品の取組みとして、新たにソバの蜂蜜を試験採取し、首都圏等でのフェアで消費者の反応を探るなど、今後の商品展開の足がかりを築いた。

域内への取組みとして、地域で蜂蜜や産業振興等に携わる方を対象に、森と蜜蜂がもたらす食との関係や、売れる商品づくりやプロモーション手法についてのワークショップとセミナーを行った。

これにより、新たな蜜種の試作や試験栽培に着手したことで、次年度以降の試験販売につなぐことができ、域外でのフェアによる「おとべのはちみつ」の知名度の向上と、域内での蜂蜜を活かしたまちづくりへの機運を醸成することができた。

◎目標値の設定

- ①所得の拡大 ～ 2年目（370千円）、3年目（1,800千円）
- ②有給雇用の拡大 ～ 1年目（0人）、2年目（1人）、3年目（1人）
- ③販売商品数 ～ 1年目（2つ）、2年目（3つ）、3年目（4つ）

◎事業のココがポイント

事業所得向上と雇用の拡大のため、単に収量の増加に力点を置くのではなく、これまでは5月中旬から約1か月の採蜜期間だったが、蜜種を増やすことにより採蜜期間を3ヶ月ほど延長でき、収量の増加と雇用期間の延長につながられた。

今後、パッケージの検討や地域の特産品との組み合わせ等による単価の向上を目指す。

◎事業実施において苦慮したこと

花の開花期間の天候に収量が左右されるため、単年度の調査では蜜源や収量の見通しが立てにくく、数シーズンで構える必要があること。

町の知名度の低さもあり、単に新たな蜜種を販売することよりも、商品コンセプトやストーリー作りしっかりとすることが必要であること。